

## 「商店街をどうしょうてんがい」報告会

先月にも紹介したが、5月5日午後に円頓寺商店街の空き店舗を活用した「ふれあい館えんどうじ」において、社会調査実習の報告会がおこなわれた。報告会の名称は、報告書のタイトルである「商店街をどうしょうてんがい」である。地元の人たちも、このタイトルが気に入っていたようだ(?)。連休の最終日で絶好の行楽日和、当初の予想よりは集まりが悪かったが、それでも10人の商店街や地域の人たち、それに西区役所から2人が参加してくれた。

まずは5人の調査メンバーによる報告である。この日のために、両面コピーの資料も準備して報告にのぞんだ。分厚い報告書を初めて手にする人も多く、どれだけ調査全体が理解されたか定かでないが、報告の後に活発な質疑がおこなわれた。質疑というより、日ごろから問題に感じていることを述べあう場となった。商店街で古くから商売をつづける「長老」格の人は、商店街や地域、役所に対する不満を切々と訴えた。とくに議論になったのは、商店街と地域=町内会との関係であった。商売(ゼニ・カネ)のことに目が向きがちな商店街と地域との関係は、考えていた以上にギクシャクしたものがあろう。でも、近くの地域の町内会長の方が、これから結びつきを深めていこうと提案されたのが印象的であった。

報告会の会場は、空き店舗を改装した「ふれあい館」であった。細長くはあるが、和室もある案外広いスペースである。冷蔵庫やテレビもあり、商店街や地域の人がふれあうのに、ちょうどよい空間のようだ。メンバーからも、ここを「居酒屋化」して、まずは人と人のつながりを作ることが大切でないか、という提案がなされた。しかし、囲碁や「足つぼ」などで、かなり部屋が埋まってしまっている。名古屋駅にも近く、値段も安いので、気安く利用できればとおもっていたが、なかなか予約もとりにくいようだ。「ふれあい館」が盛況なのは結構なのだが、もうすこし気楽に誰もが使えるスペースにする工夫も必要なのではないか。

調査メンバーは夏の七夕祭りの「はりぼて」の製作にも取り組むという。どんな「はりぼて」ができるか、いまから楽しみだ。円頓寺の「はりぼて」は、大学に近い雁道にも回ってくるという。円頓寺、さらには雁道でも見れるかもしれない。これを機会に、また円頓寺にぶらりと出かけてみよう。

(5月6日 記)